

入鹿小だより

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 29 年 5 月 26 日
第 5 号

丸山千枚田 田植えの集い

5月21日（日曜日）、恒例の「丸山千枚田田植えの集い」が行われ、入鹿小学校の児童たちも田植えの集いに参加させていただき、田植えを体験してきました。当日は5月とは思えないような暑さで、熱中症が心配されるほどでしたが、子どもたちは元気いっぱいです。

まず、千枚田保存会会長の喜田さんから苗の植え方について説明していただいた後、さっそく田んぼに入って田植えの開始です。高学年の児童は、低学年の子について、いろいろ教えながらも慣れた手つきで自分がもった苗をどんどん植えていきます。1年生の中には、裸足で田んぼに入ったときの足の感触と水の冷たさにおっかなびっくりの子もいましたが、だんだん慣れてくるうちにそんなことは平気になってきます。また、田んぼにいるオタマジャクシ等を嫌がっていた子も、田植え後



にはオタマジャクシやイモリ取りをしていました。その様子を見て、体験することの大切さを実感しました。

小学校に割り当てていただいた田んぼに苗を植え終ると、5・6年生たちは千枚田のオーナーの皆さんにインタビューに行きました。これは、後日の授業で千枚田のことをまとめるための取材です。こちらも最初はなかなか声をかけにくそうので、緊張した顔でインタビューしていましたが、慣れてくるうちに笑顔で会話できるようになっていました。



こんなすてきな大自然の中で育つ子どもたちは本当に幸せだと感じる一日でした。と同時に、ふるさと紀和が



誇る丸山千枚田の田植えに参加することで、子どもたちが地元のすばらしさ、紀和の「すてき」に気づき、いっそう地元を愛する心が身につくことを願っています。

秋には稲刈りがあります。自分たちが植えた苗が立派に育ってくれるのが楽しみです。

最後に、関係していただいたみなさんのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

裏面もご覧ください

マナウスよもやま話 ②

赤道直下ということとは・・・

前回もご紹介したとおり、マナウスの街は南緯3度にあります。ちなみに熊野市はおよそ北緯34度ですから、いくら三重県最南の市とはいえ、赤道からはかなり遠いですよね。冬になると寒くなるし、たまに雪も降りますね。しかし、ほぼ赤道直下の場所は1年中暑いんです。最高気温の平均は、高いときが8月～9月の約32℃、低いときが1月～2月の30℃、感覚的には「ずっと暑い」という表現で片づけられるほどのちがいはありませんね。ちなみに、このちがいは雨季と乾季によるもので、乾季の方が気温が高くなります。

このように、気温が高いことは想像がつくとは思いますが、それ以外にも日本とはちがうことがたくさんあります。そのひとつが昼と夜の長さです。日本ではこの季節、ずいぶん日が長くなり、朝は5時ころには明るくなるし、夕方は6時過ぎでもまだ明るいんですよね。逆に冬は7時にならないと明るくなってこないし、夕方は5時にはほぼ真っ暗になってしまいます。夏は昼が長く、冬は昼が短い。これが日本では当たり前です。ところが赤道近くでは夏冬関係なく、6時前後に陽が昇り、6時前後に陽が沈むのです。年間を通して日の出、日の入りとも20分くらいのちがいはなかったと記憶しています。余談ですが、私の妻は年間を通して、毎朝アパートの台所でアマゾンから昇ってくる朝日を見ながら私と娘のお弁当を作ってくれていました。

星の動き方もちがいます。東から西へ動くのは変わりませんが、東から上がって来た星は、真上に上がり、頭の上を通過して西の方へ沈んでいきます。これは星に限らず太陽と月も同じです。さらに月は見え方もちがいます。新月から三日月、半月へと変化するとき、日本では右下の方から月が大きくなっていきますよね。ところが赤道直下では下から月が大きくなっていきます。

さてそこで問題です。右の写真は晴れた昼間に撮影したのですが、日本ではありえないことが起こっています。それは何でしょう。

正解は次回のマナウスよもやま話で発表しますので、皆さんお考えください。(白黒の写真なので少々わかりづらいかもしれませんが。本校のホームページをご覧くださいとカラーで掲載してありますので、そちらもご覧いただければと思います。

